安全データシート

エンドタール二ナトリウム塩

改訂日：2024-01-29 版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: エンドタール二ナトリウム塩
CB番号	: CB9916867
CAS	: 129-67-9
同義語	: エンドタール二ナトリウム塩

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 除草剤
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用

GHS改訂4版を使用

健康に対する有害性

急性毒性(経口)　区分3

急性毒性(経皮)　区分3

特定標的臓器毒性(反復ばく露)　区分2(肝臓)

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性)　分類実施中

水生環境有害性 (長期間)　分類実施中

オゾン層への有害性　分類実施中

GHSラベル要素

絵表示

GHS06

注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有毒

皮膚に接触すると有毒

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓)　長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策

粉じん、煙、ｶﾞｽ、ﾐｽﾄ、蒸気、ｽﾌﾟﾚｰを吸入しないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣を着用すること。

応急措置

皮膚に付着した場合:多量の水/...で洗うこと。

汚染された衣服を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

他の危険有害性

---

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: エンドタール二ナトリウム塩
別名	: 7-オキサビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2,3-ジカルボン酸ジナトリウム、ジナトリウムエンドタール、ジナトリウム3,6-エンドオキソヘキサハイドロフタレート、Disodium 7-oxabicyclo(2,2,1)heptane-2,3-dicarboxylate、Disodium endothall、Disodium 3,6-endoxohexahydrophthalate
濃度又は濃度範囲	: 100%
分子式 (分子量)	: C8H8O5・2Na(230.13)
CAS番号	: 129-67-9
官報公示整理番号(化審法)	: -
官報公示整理番号(安衛法)	: -
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	: データなし。

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

汚染された衣服を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。　飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

データなし。

応急措置をする者の保護

データなし。

医師に対する特別な注意事項

データなし。

---

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、粉末消火薬剤

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。

粉末の場合は、電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収する。

粉塵が飛散しないようにして取り除く。

微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱い注意事項

粉じん、煙、ｶﾞｽ、ﾐｽﾄ、蒸気、ｽﾌﾟﾚｰを吸入しないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣を着用すること。

接触回避

データなし。

衛生対策

取扱い後は手などをよく洗うこと。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

データなし。

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産衛学会(2012年度版)

未設定

許容濃度

ACGIH(2012年版)

未設定

設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。　蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。(規定句を置き換える)

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋､保護衣を着用すること。

眼の保護具

必要に応じて、適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護手袋､保護衣を着用すること。

---

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	固体(Sax (11th, 2004))
色	無色(GESTIS (Access on June. 2012))
臭い	データなし。
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。

144℃(CRC (91st, 2010))

データなし。

データなし。

データなし。

データなし。

データなし。

0.00000000105 mmHg(25℃)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

データなし。

1.431g/cm3(20℃)(CRC (91st, 2010))

水:0.000193 mg/L (25℃, EST)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

0.23 (EST)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

データなし。

データなし。

データなし。

融点・凝固点

144℃(CRC (91st, 2010))

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし。

引火点

データなし。

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

0.00000000105 mmHg(25℃)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

蒸気密度

データなし。

比重(相対密度)

1.431g/cm3(20℃)(CRC (91st, 2010))

溶解度

水:0.000193 mg/L (25℃, EST)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

n-オクタノール/水分配係数

0.23 (EST)(SRC Phys Prop (Access on June. 2012))

自然発火温度

データなし。

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

データなし。

---

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし。

化学的安定性

情報なし。

危険有害反応可能性

情報なし。

避けるべき条件

情報なし。

混触危険物質

情報なし。

危険有害な分解生成物

情報なし。

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は51 mg/kg(RTECS (2006))と報告され、区分3に該当する。一方、EU分類ではT; R25であり、区分2または区分3に相当することから、共通の区分として区分3とした。

健康有害性については、関連物質(遊離酸)の(1R,2S,3R,4S)-7-オキサビシクロ[2,2,1]ヘプタン-2,3-ジカルボン酸、CAS番号:145-73-3も参照のこと。GHS分類:区分3

経皮

ラットのLD50値は750 mg/kg、およびウサギのLD50値は100 mg/kg(いずれもRTECS (2006))と報告され、それぞれ区分3および区分2に該当する。一方、EU分類ではXn: R21(EC-JRC (ESIS) (Access on June. 2012))であり、区分3または区分4に相当することから、共通の区分として区分3とした。GHS分類:区分3

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

データなし。なお、EU分類ではXi; R36/37/38(EC-JRC (ESIS) (Access on June. 2012))である。GHS分類:分類できない

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データなし。なお、EU分類ではXi; R36/37/38(EC-JRC (ESIS) (Access on June. 2012))である。GHS分類:分類できない

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖細胞変異原性

データなし。なお、フリー体であるエンドタールは、in vitro試験におけるエームス試験およびヒト末梢血リンパ球を用いた染色体異常試験でいずれも陰性の結果が得られている(HSDB (2010))。GHS分類:分類できない

発がん性

ラットの104週間混餌投与試験において、900 ppm以上の群で雌の子宮内膜間質部腫瘍の増加が見られ、また、腺胃および前胃の病変が多く発生した(HSDB (2010))。一方、マウスの78週間混餌投与試験においては、標的臓器は消化管であり、750 ppm以上の群で腺胃の粘膜過形成と腺拡張が見られ、 1500 ppm群で十二指腸の粘膜過形成、十二指腸と空腸の腫瘍発生率の増加、生存率の低下が報告されている(HSDB (2010))が、データの詳細が不明なため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

生殖毒性

ラットの二世代にわたり混餌投与した生殖試験において、高用量投与で各世代の親および仔の体重増加抑制が認められたが、生殖への影響に関する記載はなく(HSDB (2010))、また、妊娠ラットの器官形成期投与により母動物の体重が低下したが、仔および生殖に関して異常は見出されなかった(Teratogenic (12th, 2007))と報告されているが、データの詳細が不明のため「分類できない」とした。 GHS分類:分類できない

---

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

分類実施中

水生環境有害性(長期間)

分類実施中

オゾン層への有害性

分類実施中

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

2588

国連品名

その他の殺虫殺菌剤類(固体)(毒性のもの)(他に品名が明示されているものを除く。)

国連危険有害性クラス

6.1

副次危険

-

容器等級

II

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

毒劇法の規定に従う。

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

151

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

劇物

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA:国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法(化審法)https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項：

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。